

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月1日



本資料の如何なる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社は一切責任を負うものではありません。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.



ただいまより、太陽ホールディングス株式会社2024年3月期決算説明会を開始致します。
本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

当社グループの事業セグメント

エレクトロニクス事業 (エレキ事業)

プリント基板（PCB）用部材を始めとする電子部品用化学品部材の開発・製造販売及び仕入販売



医療・医薬品事業 (医薬事業)

医療用医薬品の製造販売・製造受託



ICT&S事業*

ICT事業、ファインケミカル事業、エネルギー事業及び食糧事業等



*当期より、「その他事業」の名称を「ICT&S事業」に変更しました。
変更はセグメントの名称のみであり、セグメントを構成する子会社に変更はありません。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

2

当社グループの報告セグメントです。
エレクトロニクス事業、医療・医薬品事業、ICT&S事業という3つのセグメントとなっています。

2024年3月期 トピックス

エレキ事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は、累計YoYで4%増加 QoQで3%減少 累計YoYに関する要因 <ul style="list-style-type: none"> ● リジッド：車載関連、スマートフォン関連部材が販売数量増加 ● PKG：メモリ向けドライフィルム製品を中心に販売数量増加 QoQに関する要因 <ul style="list-style-type: none"> ● リジッド：民生用関連部材の販売数量減少 ● PKG：好調であった第3四半期連結会計期間と比較すると僅かに販売数量減少 為替の影響 <ul style="list-style-type: none"> ● 円安に推移したことにより業績にプラスの影響 期中平均為替レート：当期1米ドル144.4円、前期1米ドル135.0円 ● 新技術開発センター「InnoValley」竣工
医薬事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は、累計YoYで15%増加 QoQで4%減少 累計YoYに関する要因 <ul style="list-style-type: none"> ● 製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化や原材料、エネルギー等の価格高騰に伴う販売価格の改定による増加 ● アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の譲受による増加 ● 他社同効薬・鎮咳薬等の供給不足に伴う需要の増加 その他事項 <ul style="list-style-type: none"> ● 太陽ファルマの一部製品の販売権につき、収益性の低下を踏まえ特別損失計上 ● パーキンソニズム治療剤「マドパー®配合錠」の剤形追加に関する製造販売承認を取得 ● 太陽ファルマテック再生医療等製品の受託事業を開始
ICT&S事業	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンリードがRITの株式譲受
全社	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日経半導体株指数」構成銘柄に選定 ● CDP 2023 気候変動質問書 Bスコア獲得

2024年3月期のトピックスです。

エレクトロニクス事業は売上高・営業利益ともに過去最高となっています。為替の影響については、円安に推移したことにより業績にプラスの影響があります。また、後ほど詳細ご説明しますが、新技術開発センターの「InnoValley」が竣工しました。

医療・医薬品事業は売上高は前年同期比で15%増加しています。一方で、太陽ファルマの一部製品の販売権につき、収益性の低下を踏まえ特別損失を計上しています。マドパー®配合錠の剤型追加により半量製剤の製造販売の承認を取得しました。太陽ファルマテックにおいては、再生医療等製品の受託事業を開始し、初めての売上が立っています。

ICT&S事業では、ファンリードが株式会社RITの株式を100%譲受しました。

全社としては、「日経半導体指数」の構成銘柄に選定されました。また、CDP 2023 気候変動質問書にてBスコアを獲得しています。

連結業績

単位：百万円	①	②	②-①	(②-①)÷①	③	②÷③
	2023年3月期 通期 実績	2024年3月期 通期 実績	前年 同期比	増減率	2024年3月期 通期 業績予想 (11月6日発表)	進捗率
売上高	97,338	104,775	7,436	8%	103,600	101%
営業利益	15,972	18,203	2,231	14%	17,600	103%
経常利益	15,462	17,310	1,848	12%	16,900	102%
親会社株主に帰属 する当期純利益	11,405	8,654	△2,751	△24%	11,700	74%
円・USDレート	135.0	144.4	9.4		135.0	
EBITDA	23,748	27,170	3,421	14%	26,600	102%
営業利益率	16%	17%			17%	
EBITDA マージン	24%	26%			26%	

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

 太陽ホールディングス

4

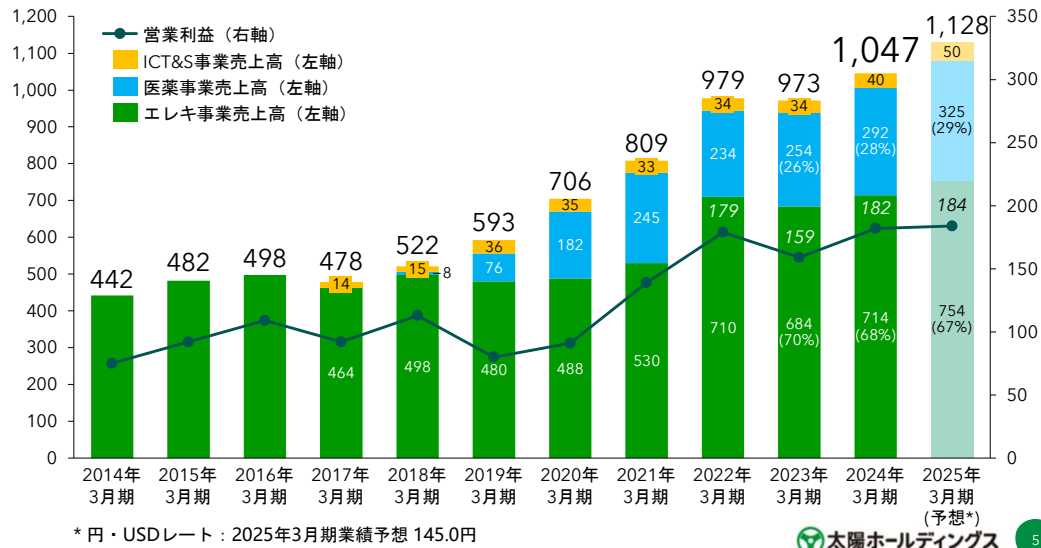
連結の業績です。

売上高は1,048億円、営業利益で182億円、経常利益で173億円、親会社株主に帰属する当期純利益は87億円となりました。

通期業績推移

通期業績推移：売上高・営業利益

単位：億円



太陽ホールディングス

5

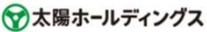
通期業績推移です。

売上高は概ね右肩上がりとなっており、2024年3月期は売上高として初めて1,000億円を突破しました。

セグメント別業績（セグメント別売上高・営業利益・EBITDA）

		①	②	②-①	(②-①)÷①	③	②÷③
単位：百万円		2023年3月期 通期 実績	2024年3月期 通期 実績	前年同期比	増減率	2024年3月期 通期業績予想 (11月6日発表)	進捗率
エレクトロニクス事業	売上高	68,419	71,415	2,996	4%	70,800	101%
	営業利益	15,845	16,456	610	4%	16,300	101%
	営業利益率	23%	23%			23%	
	EBITDA	18,331	19,259	928	5%	18,900	102%
	EBITDAマージン	27%	27%			27%	
医薬事業	売上高	25,447	29,269	3,821	15%	29,100	101%
	営業利益	1,906	3,248	1,341	70%	2,800	116%
	営業利益率	7%	11%			10%	
	EBITDA	6,159	8,543	2,383	39%	8,200	104%
	EBITDAマージン	24%	29%			28%	
ICT&S事業	売上高	3,472	4,090	617	18%	-	-
	営業利益	26	78	52	199%	-	-
	営業利益率	1%	2%			-	-
全社費用	営業損益	Δ1,806	Δ1,579*	226		-	-

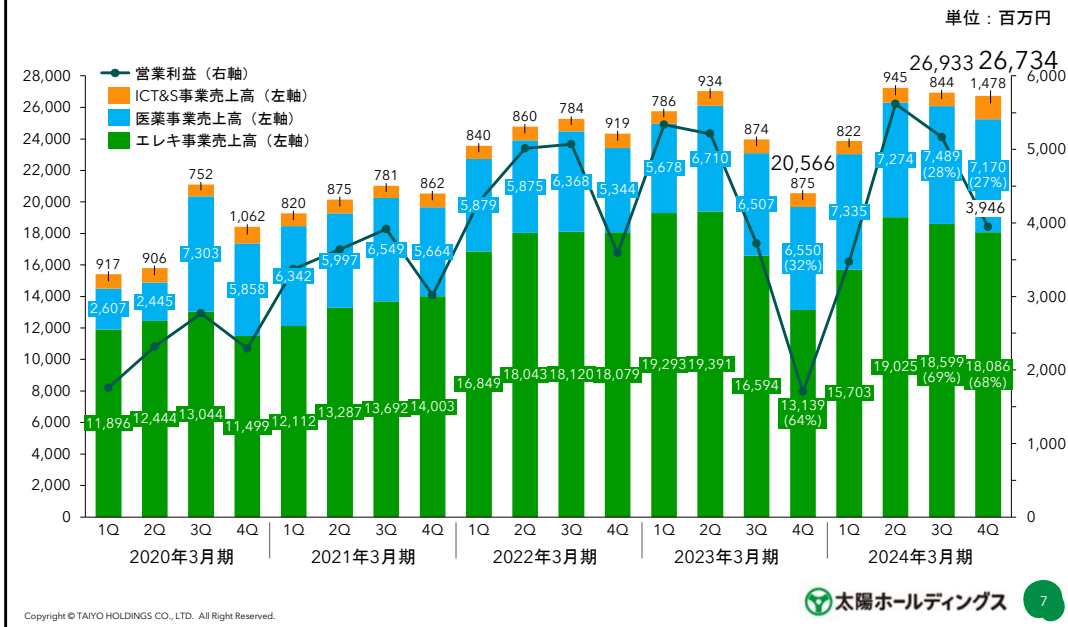
* 第1四半期においてのれんの計上金額を変更したことにより、過年度ののれん償却額を修正しました。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.  6

セグメント別の業績です。

エレクトロニクス事業は売上高714億円、営業利益165億円という結果となりました。医療・医薬品事業では売上高293億円、営業利益32億円という結果となっています。医薬事業ではEBITDAを重視しており、EBITDAは85億円となりました。ICT&S事業は売上高41億円、営業利益は7,800万円となり、売上及び営業利益ともに順調に増加しております。

四半期別推移（売上高・営業利益）



四半期別の売上高・営業利益の推移です。

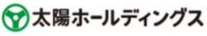
売上が特に落ち込んだ2023年3月期の第4四半期に比べますと、2024年3月期の第4四半期の売上減少は大きくありません。第4四半期は例年季節性により、売上及び営業利益ともに低下する傾向があります。

BSの概況

BS前期比較							
単位：百万円							
	23/3末	24/3末	増減		23/3末	24/3末	増減
現金及び預金	47,121	58,583	11,462	支払手形及び買掛金	6,513	8,795	2,281
売上債権 ^{*1}	22,734	28,352	5,617	短期借入金 ^{*3}	18,327	43,588	25,260
棚卸資産 ^{*2}	14,976	17,166	2,189	長期借入金	53,174	43,134	△10,039
上記以外	5,217	5,552	334	上記以外	16,508	16,835	326
流動資産合計	90,050	109,655	19,604	負債合計	94,523	112,353	17,829
有形固定資産	60,401	68,852	8,451	株主資本	86,098	89,925	3,826
無形固定資産	29,170	25,804	△3,366	その他の包括利益 累計額	6,637	10,469	3,831
投資その他の資産	7,640	8,439	799	非支配株主持分	3	4	0
固定資産合計	97,212	103,096	5,884	純資産合計	92,739	100,398	7,658
資産合計	187,263	212,751	25,488	負債純資産合計	187,263	212,751	25,488
				自己資本比率	49.5%	47.2%	△2.3%

^{*1} 売上債権：受取手形+売掛金+契約資産
^{*2} 棚卸資産：商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品
^{*3} 短期借入金：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

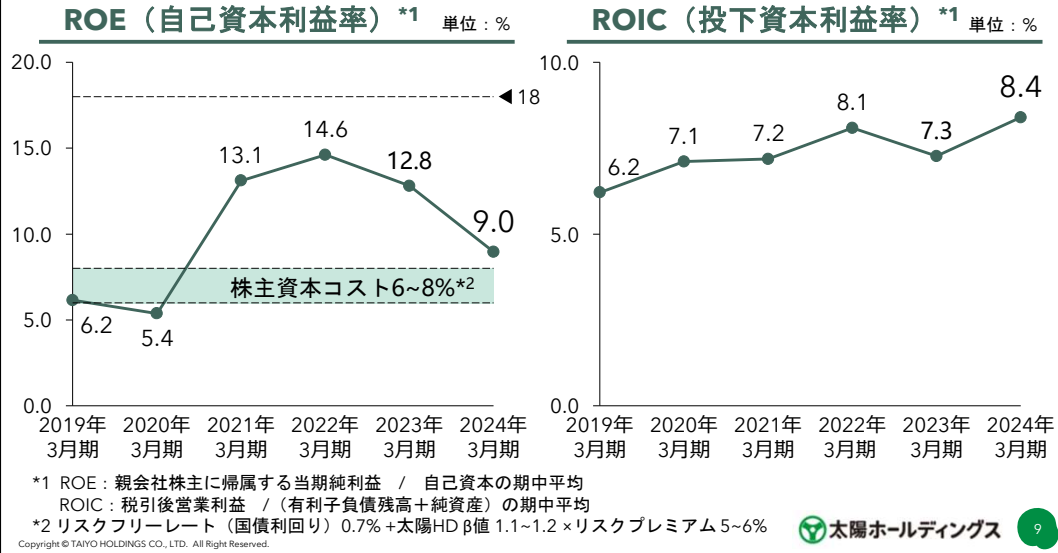
 太陽ホールディングス 8

BSの概況です。

現金及び預金が115億円増加していますが、これは借入金の増加に概ね対応しています。また、新技術開発センター「InnoValley」の竣工に伴い、有形固定資産が85億円増加しています。無形固定資産では34億円減少していますが、これは主に太陽ファルマでの減損損失計上や、第1四半期に実施した過年度のれん計上金額の修正によるものです。

連結ROE・ROIC推移

- ✓ 減損損失の影響により2024年3月期ROEは低下、営業利益上昇によりROICは改善。長期経営構想における2030年目標値ROE18%達成に向けて改善していきます。



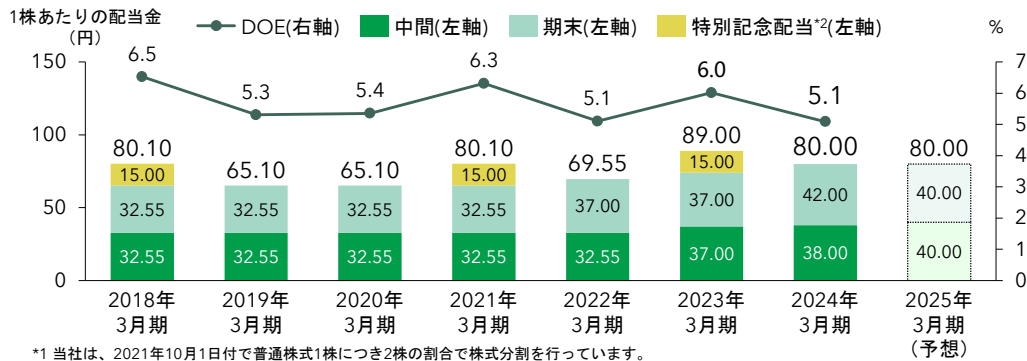
連結ROE・ROIC推移です。

ROEについては、2030年に18%を達成することを長期経営構想の目標として掲げていますが、2024年3月期のROEは太陽ファルマ製品販売権の減損損失計上の影響で低下しています。ROICについては、概ね右肩上がりに上昇しています。

株主還元の様態

- ✓ 当社は、配当政策として株主資本配当率（DOE）5.0%以上維持を目標指標としています。
- ✓ 2024年3月期の1株当たりの年間配当は、中間配当38円、期末配当42円の合計80円（DOE 5.1%）となる予定です。
- ✓ 2025年3月期は、DOE 5.0%以上維持することを前提とし、中間配当40円、期末配当40円（年間配当80円）の配当を実施する予定です。

年度別推移：配当金*1、DOE



*1 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2018年3月期の期首に該当株式分割が行われたものと仮定して算出しています。

*2 2018年3月期：会社設立65周年記念配当、2021年3月期：東証1部上場20周年記念配当、2023年3月期：会社設立70周年記念配当

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

10

株主還元の様態です。

当社は配当政策として株主資本利益率（DOE）5.0%以上維持を目標としています。これに伴い、2024年3月期の1株当たりの年間配当は、期末配当を42円としたことにより合計80円となる予定です。また、2025年3月期についても年間配当80円を予定していますが、DOEを5.0%以上維持できるように設定します。

「日経半導体株指数」構成銘柄に選定

- ✓ 当社株式が、2024年3月25日に算出・公表が開始された「日経半導体株指数」*の構成銘柄に選定されました。

日経半導体株指数の概要

選定基準	東京証券取引所上場銘柄 日経NEEDS業種分類で半導体関連業種に属する銘柄のうち、時価総額が大きい30銘柄
選定期間	年1回定期見直し 11月末に銘柄入れ替え

当社の半導体関連製品

主力製品のひとつである半導体PKG基板用SRは高い市場シェアを誇ります。他にも半導体に関連する高付加価値な製品を開発し、エレクトロニクス分野の発展に貢献しています。



半導体PKG基板用SR

* 「日経半導体株指数」公表開示リリース（日経平均プロフィールwebサイト）

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

11

当社株式が「日経半導体指数」構成銘柄に選定されました。東京証券取引所上場銘柄、かつNEEDS業種分類で主力事業が半導体関連業種に属する銘柄のうち、時価総額の大きい30銘柄を選定基準として日本経済新聞社が選定したものです。当社の半導体関連製品としては半導体パッケージ基板用ソルダーレジストが挙げられ、このシェアが非常に高いということが当社の特長となっています。

ESGにおける外部評価・指数への組み入れ

- ✓ 2024年2月にCDPよりBスコアを獲得しました。その他、女性活躍等について外部から高い評価を獲得しています。

CDP 2023 気候変動質問書



2024年2月
Bスコア取得

MSCI^{*1}日本株女性活躍指数(WIN)

2023年6月 構成銘柄に連続選定
2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

女性役員割合の業種別ランキング^{*2}

内閣府調査 2023年7月末時点
女性役員比率41.7%
プライム市場上場企業化学業界第2位

JPX日経インデックス400

2023年8月 構成銘柄選定



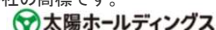
健康経営優良法人 2024

太陽ファルマテックが
2024年3月 健康経営優良法人
に選定 (3年連続)



^{*1} 太陽HDのMSCIインデックスへの採用及びMSCIのロゴ、商標、インデックス名称の使用に際し、MSCIやその関係会社による太陽HDへの資金提供や保証、販売促進を行うものではありません。MSCIインデックスの排他的独占所有権はMSCIにあります。MSCI、MSCIインデックスの名称及びロゴはMSCI又はその関係会社の商標です。

^{*2} 内閣府 男女共同参画局が算定し公表しているプライム市場上場企業の業種別ランキング



12

ESGにおける外部評価・指数への組み入れについてです。
2023年のCDP気候変動質問書においては、今回が当社としての初回答となりましたが、Bスコアを獲得することができました。2023年8月にJPX日経インデックス400の構成銘柄として選定されました。また、MSCI日本株女性活躍指数については2023年6月に昨年に引き続き選定されております。
女性役員割合の業種別ランキングでは化学業界で第2位となり、高い女性役員比率を保持しています。さらに、2024年3月に太陽ファルマテックは3年連続で健康経営優良法人に選定されました。

太陽ファルマ特別損失の計上

- ✓ 当期、太陽ファルマ製品の販売権につき、収益性の低下を踏まえその評価額の見直しを実施し、特別損失48億円を計上しました。

太陽ファルマ特別損失の概要

特別損失の内容	当社連結子会社である太陽ファルマ株式会社において、収益性の低下した販売権について、その評価額の見直しを行いました。
特別損失の影響額	5製品の減損損失 4,792百万円
特別損失発生の主な理由	カイトリル®・マドパー®・メキシチール® ・薬価改定に伴う販売価格の下落、円安やインフレに伴う調達価格の高騰等 ジゴシン® ・円安やインフレに伴う調達価格の高騰等 レミニール® ・薬価改定に伴う販売価格の下落、市場環境の変化に伴う販売数量の減少

なお、当該減損損失を計上することにより2025年3月期以降は無形固定資産に関して計上されていた販売権償却費のうち747百万円が軽減される見込みです。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

13

太陽ファルマの特別損失の計上についてです。

当期、太陽ファルマ製品の販売権につき、収益性の低下を踏まえ、その評価額の見直しを実施し、特別損失48億円を計上しました。

販売権の減損損失を計上したことで、結果的には2025年3月期以降の販売権償却費減少につながります。販売権は每期償却していくものですから、2025年3月期以降販売権償却費のうち7億4,700万円が軽減されていくこととなります。一方で、減損損失が48億円と大きくなったことに関して当社として厳しく受け止めております。

特別損失発生の主な理由です。カイトリル®・マドパー®・メキシチール®の3製品は薬価改定に伴う販売価格の下落、円安やインフレに伴う調達価格の高騰等が理由として挙げられます。また、ジゴシン®については円安やインフレに伴う調達価格の高騰が、レミニール®については薬価改定に伴う販売価格の下落、市場環境の変化に伴う販売数量の減少が理由となります。今回の減損損失では特にレミニールの減損損失の割合が大きいです。

エレクトロニクス事業

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

14

エレクトロニクス事業に関する説明です。

エレクトロニクス事業 用語説明

用語	内容
PCB (Printed Circuit Board)	プリント基板
SR (Solder Resist)	ソルダーレジスト (レジストインキ)
PKG (Package)	半導体パッケージ
DF (Dry Film)	ドライフィルム
BU (Build-up)	ビルドアップ

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

エレクトロニクス事業の用語説明です。
PCB、SR、PKG、DF、BUはそれぞれ、プリント基板、ソルダーレジスト、半導体パッケージ、ドライフィルム、ビルドアップを指しております。

エレクトロニクス事業 製品分類

分野	分類	性状	用途
PCB用 絶縁材料	リジッド	汎用品	液状
		高機能品	液状/DF
	PKG	液状/DF	表層保護・絶縁用SR材料 マーキング・エッチング・めっき用材料 電子機器用材料 等
	フレキ	液状/DF	
	BU	液状/DF	
その他 関連商材	その他	液状/DF	導電性銀ペースト 等

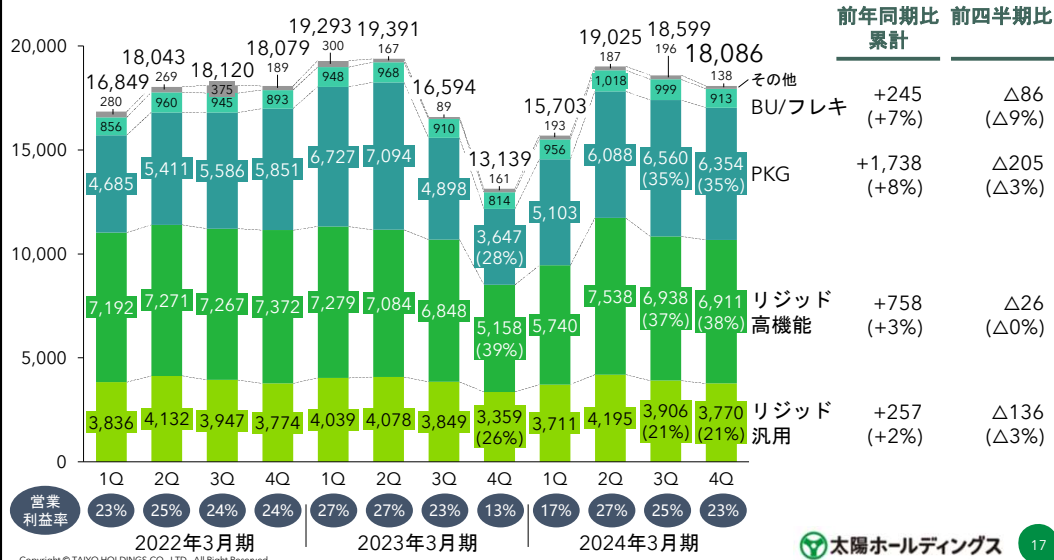
Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

エレクトロニクス事業における製品区分です。
リジッド汎用品は液状タイプのみですが、それ以外の製品区分においては液状タイプとドライフィルムタイプがあり、ドライフィルムタイプは液状に比べて利益率が高く、これがエレクトロニクス事業の高い利益率を支えています。

エレクトロニクス事業

製品別売上高

単位：百万円

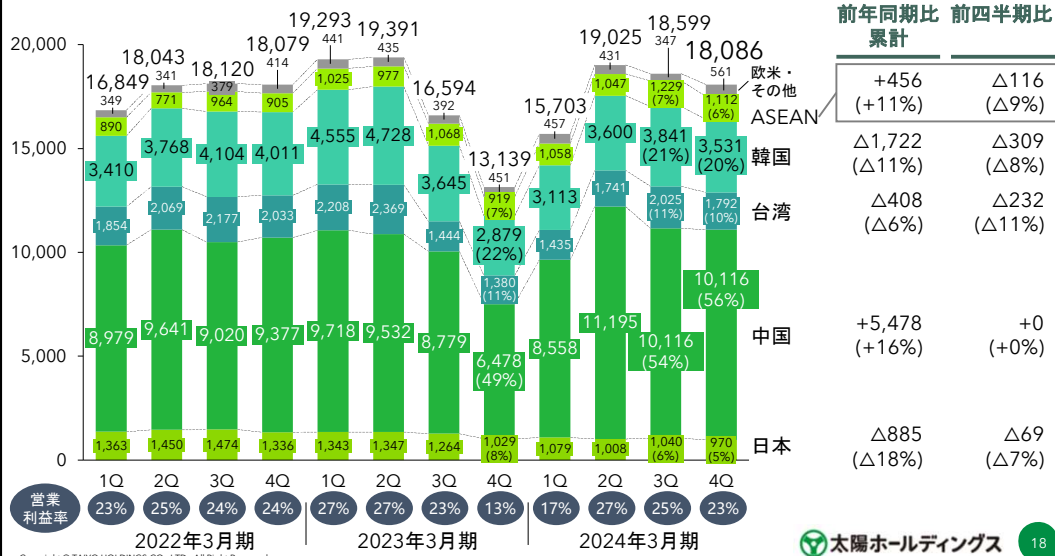


エレクトロニクス事業の製品別売上高推移です。
 エレクトロニクス事業の売上高は例年、中国地域の春節の影響で第4四半期に減少する傾向があり、2024年3月期の第4四半期も第3四半期に比べ多少減少しています。リジッド汎用品の売上高は中国における競合企業の低価格品の影響で横ばいが続いています。前年同期比では増加していますが、これは為替の影響が大きいと考えています。リジッド高機能品は2022年3月期では毎四半期70億円を超える売上高がありましたが、2024年3月の第4四半期においては売上高が69億円に落ち込んでいます。この要因は、リジッド高機能品に分類される、主にmini LEDディスプレイ向けの白色ドライフィルムの売上が2022年3月期に比べ、低減しているためです。それ以外の製品区分において大きな売上の減少はありません。
 半導体パッケージ向け製品の売上は近年大きく伸びてきており、前年同期比で17億円増加しています。また、ビルドアップ/フレキシブル基板向け製品も今後成長を図っていきたいところではありますが、現状は毎四半期9億円前後を維持している状況になります。

エレクトロニクス事業

販売地域別売上高

単位：百万円



エレクトロニクス事業の販売地域別売上高推移です。
 圧倒的に売上が伸長しているのは中国で、これは中国国内での半導体生産が大きな要因ではないかと考えています。

新技術開発センター「InnoValley」竣工

- ✓ 太陽インキ製造は、エレクトロニクス事業の技術開発力の更なる強化を目的に2024年4月に新しい技術開発センター「InnoValley」*を竣工しました。実際に当施設を使用する開発部門の社員を中心に設計段階から関与し、従業員のポテンシャルを最大限に引き出す施設としてエレクトロニクス事業の成長をけん引します。

新技術開発センター「InnoValley」の概要

【所在地】〒355-0222
埼玉県比企郡嵐山町大字大蔵388番
(嵐山事業所敷地内)

【敷地面積】約16,323m²

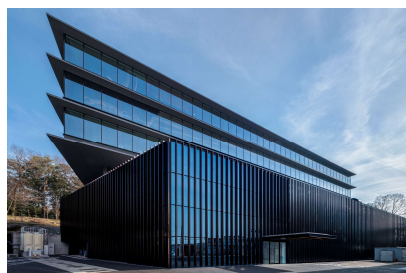
【建床面積】約10,400m²

【階数】地上6階

【竣工】2024年4月

【環境対応】ZEB Readyの達成、「CASBEE」
「CASBEE-ウェルネスオフィス」Sランク獲得

*社内公募より決定した「革新の渓谷」を意味する造語です。この技術開発センターが、創造と革新の源泉となり、新たなアイデアや製品が流れた場所であることを表現しています。「Inno」はInnovation<革新>の略であり、「Valley」<渓谷>は施設所在地と施設内特徴にも係る嵐山渓谷を意味します。



新技術開発センターの「InnoValley」を竣工しました。
エレクトロニクス事業の技術開発力のさらなる強化を目的に2024年4月に新しい技術開発センター「InnoValley」を竣工しております。
この「InnoValley」は実際、敷地面積が広く大きな建物になるのですが、従業員のポテンシャルを最大限に引き出す施設として、そしてエレクトロニクス事業の成長をけん引することを目的に開設しました。また、環境対応としてZEB Readyの達成、さらに「CASBEE」
「CASBEE-ウェルネスオフィス」Sランクを獲得しています。
なお、この「InnoValley」という名称はイノベーションの「Inno」と、施設所在地である嵐山にある嵐山渓谷にちなんだ「Valley」を組み合わせたものとなっています。

医療・医薬品事業

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

20

医療・医薬品事業に関する説明です。

医療・医薬品事業 用語説明

用語	内容
長期収載品	新薬として発売された後に特許期間もしくは再審査期間が終了し、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の販売が可能となっている先発品
CDMO	医薬品製造及び医薬品製剤開発を受託する機関 (Contract Development Manufacturing Organization)
GMP	医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準 (Good Manufacturing Practice)

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

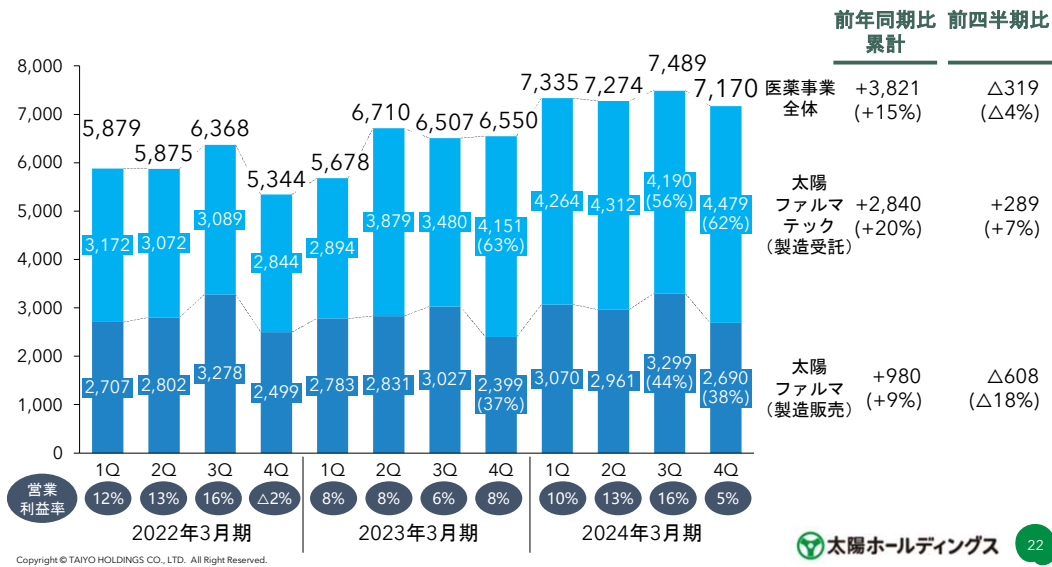
医療・医薬品事業の用語説明です。

長期収載品というものは分かりにくいかと思いますが、新薬として発売された後に特許期間もしくは再審査期間が終了し、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の販売が可能となっている先発品のことを指します。当社がジェネリック医薬品を取り扱っているという誤解をお持ちの方もいらっしゃるのですが、当社が取り扱っているのは先発の長期収載品のみです。CDMOは医薬品製造及び医薬品製剤開発を受託する機関で、グループ会社である太陽ファルマテックが目指している業態です。GMPは医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準です。

医療・医薬品事業

会社別売上高

単位：百万円



医療・医薬品事業の売上高です。順調に右肩上がりに伸びており、特に太陽ファルマテックは昨年と比べ28億円増収と大きく伸びています。太陽ファルマも9億8,000万円増収と伸びていますが、先ほどの通り販売環境は非常に厳しいものがあり、減損を計上しています。

パーキンソニズム治療剤「マドパー®配合錠」の剤形追加に関する製造販売承認を取得

- ✓ 太陽ファルマは、パーキンソニズム治療剤「マドパー®配合錠」〔一般名：レボドパ・ベンセラジド塩酸塩〕の半量製剤を開発し、剤形追加の製造販売承認を取得しました。

製造販売承認取得の概要

【承認取得製剤】

マドパー®配合錠の半量製剤
(レボドパ50mg及びベンセラジド塩酸塩14.25mg)

【開発理由】

日本神経学会及び日本パーキンソン病運動障害疾患学会よりご要望を受け、レボドパの投与量調整によるジスキネジア、ウェアリングオフなどの運動合併症の改善と医療現場の負担軽減のため、マドパー®配合錠の半量製剤を開発しました。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

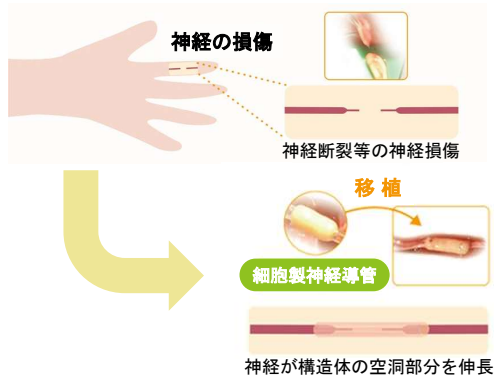
太陽ホールディングス 23

マドパー配合錠の剤形追加に関する製造販売承認を取得しました。これまでの製品の容量を半分にした錠剤の剤型追加で、簡単なことのように思われますが、当局からの承認取得のために多くの手続きが必要で大変なものではあります。

太陽ファルマテック 再生医療等製品の受託事業を開始

- ✓ 太陽ファルマテックが提携するサイフューズと京都大学により、末梢神経損傷に対する新しい治療法としてバイオ3Dプリンタを用いた神経再生技術が開発され、医師主導治験*が実施されました。当該製品の製造受託に向け、太陽ファルマテックでは事業を開始しています。

三次元神経導管移植の概要



太陽ファルマテック内設備



* 末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

24

太陽ファルマテックの再生医療等製品の受託事業の開始についてです。当社として、今期初めて売上が立ちました。再生医療と遺伝子治療は新規モダリティとして太陽ファルマテックとして力を入れていく分野です。三次元神経導管の医師主導治験が終わり、成功しています。



ICT&S事業に関する説明です。

ファンリードがRITの株式譲受

- ✓ ファンリードは、株式会社RITの全株式を2024年1月31日に譲受しました。
- ✓ ChatGPTを核としたシステム仕様書自動作成サービス（SPG-R）を始めとした、生成AI活用のSaaSプロダクトの開発、生成AI環境構築サービス、DXコンサルティングを展開するRITとの協業・連携を通じて、当社はさらなる企業価値の向上を目指します。

株式会社RITの概要

【所在地】東京都中央区

【設立】2013年8月

【資本金】600万円

【代表者】安武 遼太

【従業員】34名（インターンを含む）

【事業内容】

- SPG-Rを始めとした、生成AI活用プロダクトの開発・提供
- 生成AI環境構築サービス
- Startup Lab.（新規事業開発支援）
- パーチャルDX推進室
- DXコンサルティング



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス 26

ファンリードが株式会社RITの全株式を2024年1月31日に譲受しました。

株式会社RITはチャットGPTを核としたシステム仕様書自動作成サービスを始め、生成AI活用のSaaSプロダクトの開発、生成AI環境構築サービス、DXコンサルティングを展開しています。

今まで当社は技術者の派遣が主でしたが、コンサルタントや自社開発など上流の業務へも注力したいと考えRITを買収しました。

業績予想

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

27

2025年3月期業績予想に関する説明です。

2025年3月期 通期業績予想トピックス

エレキ事業

- 売上高は、2024年3月期実績と比較し、需要の回復を見込み6%の増収を想定
 - ・ PKG：メモリ向け製品を中心に緩やかに需要回復することを見込み、販売数量増加を想定
 - ・ リジッド(液状)：車載やスマートフォン関連部材の緩やかな需要増加が見込まれる一方で、民生機器等の需要低迷が見込まれるため2024年3月期と同等の販売数量を想定
 - ・ リジッド(DF)：最終製品の仕様変更により当社ディスプレイ向け製品の需要低下が見込まれるため、販売数量減少を想定
- 営業利益は、2024年3月期実績と比較し6%増益を想定
 - ・ 販管費：技術開発センターの新設に伴う減価償却費や研究開発費の増加等を想定
- 為替は2024年3月期実績期中平均為替レートと同水準の1米ドル145.0円を想定

医薬事業

- 売上高は、2024年3月期実績と比較し11%増収を想定
 - ・ 製造受託事業の製品ミックス変化による増加を想定
 - ・ 新規委託元からの受託製造開始による増加を想定
 - ・ アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の製造販売承認の承継による増加を想定
- 営業利益は、2024年3月期実績と比較し32%減益を想定
 - ・ 太陽ファルマテックにおける採用強化及び人事制度改定による給与水準引き上げや、新規受託品の生産立ち上げによる減価償却費増を想定。
 - ・ 太陽ファルマにおいて2024年3月期に計上した減損損失による販売権償却費の減少を想定。

ICT&S事業

- 売上高、営業利益ともに2024年3月期実績と比較し増収、増益を想定

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

28

2025年3月期の業績予想のトピックスです。

まずエレキ事業についてですが、売上高は需要の回復を見込み、6%の増収を想定しています。

為替は2024年3月期と同水準の145円を想定しています。

販管費として減価償却費の増加などを想定していますが、営業利益は2024年3月期と比較して6%の増益を想定しています。

医薬事業については、売上高は2024年3月期と比べて11%の増収を想定しています。一方で、営業利益については、太陽ファルマテックでの

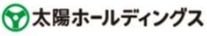
採用強化及び人事制度改定による給与水準の引き上げや新規受託品の生産立ち上げにおける減価償却費の増加等があり、32%の減益を想定しています。

ICT&S事業については、2024年3月期と比較し増収増益を想定しています。

2025年3月期 通期業績予想

通期業績予想							単位：百万円		
	① 2024年3月期 ^{*1} 通期 実績			② 2025年3月期 ^{*2} 通期 業績予想			②-①+① 増減率		
	連結	エレキ 事業	医薬 事業	連結	エレキ 事業	医薬 事業	連結	エレキ 事業	医薬 事業
売上高	104,775	71,415	29,269	112,800	75,400	32,500	8%	6%	11%
営業利益	18,203	16,456	3,248	18,400	17,500	2,200	1%	6%	△32%
経常利益	17,310	-	-	17,800	-	-	3%	-	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	8,654	-	-	12,000	-	-	39%	-	-
EBITDA	27,170	19,259	8,543	27,900	21,100	7,300	3%	10%	△15%
営業利益率	17%	23%	11%	16%	23%	7%			
EBITDA マージン	26%	27%	29%	25%	28%	22%			

*1 円・USDレート：2024年3月期実績 144.4円
*2 円・USDレート：2025年3月期業績予想 145.0円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.  29

業績予想になります。

右側のグレーで囲っているところが今回発表の業績予想です。

エレクトロニクス事業の方は先ほど申し上げた通りで売上利益とも6%の増加を見込んでいます。

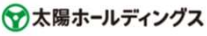
2025年3月期 上期・下期業績予想

	上期業績予想						下期業績予想					
	2024年3月期 ^{*1}			2025年3月期 ^{*2}			2024年3月期 ^{*1}			2025年3月期 ^{*2}		
	上期実績			上期業績予想			下期実績			下期業績予想		
	連結	エレキ事業	医薬事業	連結	エレキ事業	医薬事業	連結	エレキ事業	医薬事業	連結	エレキ事業	医薬事業
売上高	51,107	34,729	14,609	56,100	37,700	16,000	53,667	36,685	14,659	56,700	37,700	16,500
営業利益	9,089	7,702	1,701	9,500	8,800	1,400	9,114	8,753	1,547	8,900	8,700	800
EBITDA	13,464	9,011	4,343	14,000	10,500	3,900	13,705	10,248	4,200	13,900	10,600	3,400
営業利益率	18%	22%	12%	17%	23%	9%	17%	24%	11%	16%	23%	5%
EBITDAマージン	26%	26%	30%	25%	28%	24%	26%	28%	29%	25%	28%	21%

単位：百万円

*1 円・USDレート：2024年3月期実績 144.4円
 *2 円・USDレート：2025年3月期業績予想 145.0円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

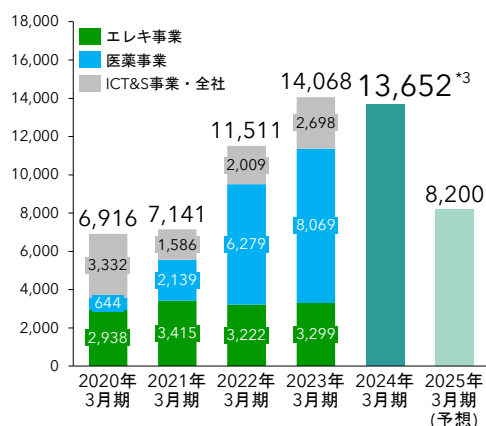

30

上期・下期のそれぞれの業績予想となります。

設備投資額・減価償却費推移

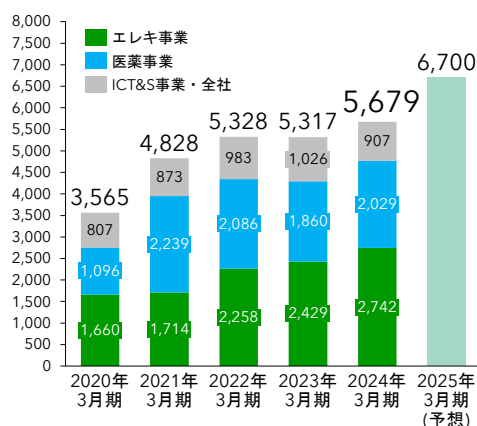
設備投資額 *1

単位：百万円



減価償却費 *2

単位：百万円



*1 設備投資額：有形固定資産とソフトウェアに対する投資額

*2 減価償却費：有形固定資産とソフトウェアに関する償却費

*3 内訳 エレキ事業：12,190M、医薬事業：1,882M、ICT&S事業：556M

全社：△977M（全社の建設仮勘定をエレキ事業子会社へ譲渡したことにより負の値となっています。）

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

31

設備投資額と減価償却費の推移です。
 2025年3月期については、大きな設備投資は予定していないため従来の水準程度の金額を想定しています。
 2024年3月期の設備投資額については、先ほどご紹介した新しい技術開発センターに係る支払いが占めている部分が大きくなっています。

Q&A

	ご質問	回答
	24年3月期通期の実績に関するご質問	
	4Qは季節性により売上が減少すると認識していたが、24年3月期はあまり減少していないように見受けられる。どのように考えるか。	例年よりは売上高はあまり減少しなかったと感じています。為替が円安に進んだことも影響の一つと考えます。QoQ販売数量で見ても、リジッド汎用、リジッド高機能、PKGとも微減となりました。
	国別の売上高で中国の割合が増えているが、どのような内訳か。	リジッド汎用はこれまで通り中国の割合が高く、リジッド高機能やMini LED向け白色DFも中国での売上は半分以上あります。PKGは韓国がメインですが、ここ最近では中国への販売が増えている傾向があります。
エレキ	25年3月の業績予想に関するご質問	
	製品別にどのような想定で立てているか。	PKGはメモリ向け製品を中心に需要が増えると想定しています。リジッド汎用は横ばいを想定しており、リジッド高機能の液状製品は車載向けやスマートフォン向けを中心に販売数量が増加すると想定しています。リジッド高機能に含まれるMini LEDディスプレイ向けの白色DFについては減少を想定しています。
	四半期ではどのような想定をおいているか。	通期で大きな差は付けていませんが、これまで通り1Qと4Qは季節性から少し弱く、2Qと3Qが少し強い想定です。
	地域別ではどのような想定をおいているか。	国別の売り上げ比率はこれまでと大きく変わらない想定を置いています。
	営業利益の為替感応度はどの程度か。	24年3月期の実績と大きな差はなく、2億円前後を想定しています。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

 太陽ホールディングス

32

Q&A

	ご質問	回答
	エレキ事業の25年3月の業績予想に関するご質問（続き）	
エレキ	償却費について、EBITDAと営業利益より算出すると、24年3月期に比べ増加する様に思われるがどのような想定をしているか。	増加要因の一つとして、2024年4月に竣工した新しい技術開発センター「InnoValley」に係る償却費が挙げられます。
	エレキ事業の今後の成長性に関するご質問	
	主力製品のSRの市場成長以外に事業の成長に向けてどのような切り口を考えているか。	BU/フレキに分類されている材料等、SR以外の新しい材料の開発にも引き続き注力して参ります。
医薬	長期経営構想にて2026年3月期に売上300億円、営業利益率15%を目標として掲げられているが、達成確度はどのように考えるか。	売上は24年3月期で29,269百万円と既に目標に近いところに来ており、25年3月期は300億円を上回る予想です。営業利益率15%については、売上が300億円を大きく上回る想定から難易度が高いと考えておりますが、金額として45億円の達成は目指せると考えています。45億円の達成には太陽ファルマテックにおける新規顧客からの製造受託開始等を想定しています。
全社	自社株買い等、株主還元についてどのように考えているか。	自社株買いは株価水準やインサイダー情報を勘案のうえで適宜検討していきます。25年3月期の設備投資額は24年3月期より少ない想定ですが、一方で負債が膨らんでいる状況のため、これらのバランスも考慮して自社株買いを検討していきます。また、長期経営構想で掲げていますDOE 5%以上維持という目標の元、今後も還元を進めていきます。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.